

# 学校力向上プラン【評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 ○積極的・主体的に学び続ける子 ○自ら学びともに考える子

## 令和7年度 重点目標【一人ひとりの子どもの成長を育む学校】

①一人ひとりが『自己を発揮できる学習』をめざして ②一人ひとりが「自分や友だちの良さを感じる」 ③一人ひとりが安全に過ごし、体を鍛え、生活を振り返ることができる児童の育成 ④一人ひとりがよりよい生活のために、考え行動することができる児童の育成の4つの柱(学力向上・人権教育・健康教育、安全教育・生徒指導)を軸に教職員が協働し安心・安全な学校になるよう、学校全体で課題解決に努め学校力を高めていく。

### 学びの現状・

令和6年度全国学力・学習調査では、算数科・国語科ともに全国平均をやや下回る結果となっている。「思考力・判断力・表現力」の伸長のために、それらを支える「知識・技能」についても確かな定着に取り組んでいきたい。今年度は校内研究教科を算数科に変更して、子どもが主体的に学習に向かうための指導の工夫、思考力・判断力・表現力を高める指導に取り組んでいきたい。令和6年度の学校アンケートでは、「問題を解くときに、これまで習ったことが使えないか考えている」という項目が低かった。既習の学習を結びつけながら学習の深まりをめざしつつ、個別最適な学び・協働的な学びの一体化の充実に取り組むなかで子ども自身が学びを進め、自分自身のものにできるようになるよう取り組んでいきたい。

### 「豊かな心・健やかな体」の現状

令和6年度学校教育アンケートで「自分にはよいところがある」という項目が低かった。一方で「周りに困っている子がいるとき、自分にできることはないか考えている」の項目は高かった。自分以外の子に対する優しさや心遣いを大切にしつつ、自分自身への肯定感をもてるように取組を進めていきたい。体力向上については、引き続き縄跳び週間などの取組は継続しつつ、普段の体育の授業の在り方について共通理解を深めていく。生活調べや年間一回の各学年での食育の授業は引き続き今年度も取り組む。

項目	中目	具体目標	評価項目（取組、成果・状態） （●重点とする取組 ★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認（～12月）	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学力	主体的に学び続ける子	学力向上	【学習内容の定着】 子ども一人ひとりが学ぶ力を高め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業における個別支援などの取組を行う	・「勉強のことでわからないことがあると、自分で調べたり、友だちや先生に聞いたりしている」肯定80% ・学習内容の定着に向けて、ドリルパークに積極的に取り組む。	実施状況	3学期	A	A	学校アンケートでは、全校で80%の肯定的な回答が得られた(低学年と高学年で肯定率に大きな差はない)。また、保護者アンケートにおいても、今年度、人権的な視点を学力向上と結びつけ、学習環境や支援の仕方に着目しながら研修を進めてきたことの成果でもある。しかし、学級内には、困っていても相談できずにいる子どももいるので、子ども一人ひとりがわかる授業づくりを行うとともに、困り感に寄り添える学級づくりを継続していきたい。
		個別・最適な学び、協働的な学びの表現をめざした授業改善	【問題解決力の育成(問題解決的な授業の推進)】 さまざまな授業で問題解決的な学習を学校全体で推進し、子どもの問題解決力を育成する	・「問題をとくときに、これまでに習ったことが使えないか考えている」肯定80% ☆「友だちの考えを聞くとときは、新しい考えやよりよい考えを探しながら聞いている」肯定80% ☆ステップアップ研修や若手研等の研修において、指導技術について共通理解する。	学校アンケート	3学期	A	A	学校アンケートでは、「評価基準」としている二つの質問において、全校で80%の肯定的な回答が得られた。どちらの質問においても、低学年は90%程度、高学年はR6よりも改善(68%⇒74%)された。日々の授業で問題解決的な学習を推進したり、教職員の研修を充実させたりした結果の一部が表れてきている。
		【一人1台PCの活用】 さまざまな場面で児童用タブレットを使い、情報活用能力の伸長を図る	・「週3回以上授業で児童がPCを活用している」(80%) ・「定期的に持ち帰り、課題配信による家庭学習を実施している」(持ち帰り回数)	学校アンケート	3学期	B	B	A	タブレットを活用した授業づくりが進み、教師も子どもも活用することが日常化してきている。しかし、1年生のタブレット配置が大幅に遅れたり、タブレットの切り替え時期と重なったりしたことから、タブレットを活用する機会が少なくなってしまった。そのことから、学校アンケートや保護者アンケートでは、昨年度よりも大幅に肯定率が下がる結果となった。新たに配備されたタブレット(iPad)の活用を進めていくとともに、子どものメディアリテラシーや情報活用能力を高めていきたい。
		【主体性の育成】 主体的に授業に参加し、学習内容を身につけていくために、子どもの問題意識を大切に授業づくりを進めていく	・「算数の授業は好きですか」肯定的75% ・「授業では、めあてについて考えたり、ノートに書いたりしている」肯定的80%	学校アンケート	3学期	B	B	A	学校アンケートでは、「算数の授業が好きですか」という回答に対して、低学年は80%を上回る肯定率であったが、3年生以上は肯定的率が70%を下回る結果となった。算数の学習内容が難しくなることで、不得意だという意識につながっている可能性がある。今後も、めあて(目的意識や相手意識)を明確にしながら、子ども自ら「学び」や「達成感」を感じる授業づくりを重視していきたい。
豊かな心・健やかな体	たくまじい子 心身ともに	体力向上	【授業づくり 体力づくり】 体育の授業での「準備運動」について職員間で共通理解をし、体育授業の充実を図ることで体力づくりに取り組む。※全児童を対象にリズム縄跳びの取組も行う。	「外で体を動かすことは好きですか」肯定的な回答 90%以上 種目ごとに準備運動があることを共通理解し、授業実践を行う	学校アンケート 実施状況	3学期	A	A	リズム縄跳びは計画通りに実施できた。実施期間が終わっても、縄跳びカードをもって休み時間に取り組む児童も見られた。体育主任を中心とした準備運動や授業実践の紹介により、授業の在り方について深めることができた。
		命を守る	【防災教育】 年間4回の避難訓練や総合的な学習の時間での取組で子どもの防災への意識を高める	「火事や地震があったとき・不審者が入ってきたときにどのように行動するかわかっている」肯定的な回答80%	学校アンケート	3学期	A	A	学校アンケートの結果、児童の肯定的な回答は93.8%であった。また保護者からの「緊急時の対応について、学校は tetoru や手紙などでわかりやすく伝えていく」の肯定的な回答も95%であった。取組みも計画通りでき、安全への意識が高まっている。

生活	安心安全な学校・学級	【いじめ】 いじめ防止のため一人ひとりにあった「居場所と出番」がある学級集団をつくる。いじめが起こった際には、いじめ対策基本方針にのっとり適切に対処する。	いじめアンケートを1年に3回、同じ日に実施し、アンケートの内容について子どもの思いをたずね、すべての事案に対応する。100%	実施状況	3学期	A	6月と11月にいじめアンケート(土師っ子アンケート)を児童全員実施。(不登校児童は未実施)その後全員から聞き取りも行う。	A	保護者アンケートでは楽しく学校に通っているが92%となっている。毎学期行ったいじめアンケート後も全ての児童に聞き取りを行い、丁寧に対応した。	A	・子どもたちのいじめに関するアンケートを個別にとり、アンケート後のフォローを続けてもらっているなど、丁寧な取組に感心した。  ・登下校のあいさつもしっかりできていると思う			
		●【気になる子ども・不登校対応】 普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	気になる子どもの状況を子ども支援委員会で共有し具体的な支援や教育相談につなぐ。	実施状況	3学期	A	校内委員会やケース会議を開き、情報共有と対応を考え実行している。	A	子ども支援委員会やケース会議で、気になる児童や不登校児童の情報共有と対応の共通理解を行い、対応。担任だけの負担にならないよう全教職員で連携を図り対応できた。					
		【よりよい生活】 「土師のよい子」を合言葉に、規律ある学校生活に取り組む。	「学校のきまりを守っている」「相手の気持ちを考えて行動している」ともに、80%	学校アンケート	3学期	A	前期末(10月)に「土師のよい子」をチェックシートで振り返る。児童会・委員会中心に朝会等で生活目標や伝達事項を発信している。	A	学校アンケート結果は「きまり」81%「相手の気持ち」84%で上回った。子どもたちの振り返りでも「土師のよい子」を守れた児童が83%となった。今後も教職員の共通認識を図り、子どもたちときまりについて考えていける場をつくっていきたい。					
	自他を認め合い、協力する子	違いを認め合いを育む子	●【人権教育】 自尊感情の高まりや他者理解につなげるために、友だちや周りの子の違いを認めたり、良さを感じたりするだけでなく、自分の良さを感じる取組を行っていく。	「自分には、よいところがあると思いますか」70% 「友だちや周りの子の良いところを見つけることができる」70%	学校アンケート	3学期	A	「平和週間」「人権週間」「やさしい子週間」を計画的に行っている。「ふわふわ行動の木」は各クラス分を中央ホールに通年掲示しており、いつでも振り返られるようにしている。	A			年間を通して計画的に「平和週間」「人権週間」「やさしい子週間」を実施した。学級でも友だちのいいところを伝え合う活動をしている。「自分には、よいところがあると思いますか」という項目では81.3%と目標を大きく上回ることができた。同時に「友だちや周りの良いところを見つけることができる」も89.5%と大きく達成した。自分だけでなく、友だちのよさやがんばりも認められた。	A	・自分のことも友だちのことも周りの人のことも大切にできるようはたらきかけを行ってきているなど思った。 ・集団登校など高学年が低学年を面倒見ている姿がよかった。
			【特別支援教育】 ちがいを認め、他者への思いやりをもつように、互いに尊重し合うことができる子どもを育成する。	「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」80%	学校アンケート	3学期	A	各学年1回の啓発授業を計画的に実施している。	A			各学年1回の啓発授業は計画通り実施できた。「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」は全校で85.7%で、目標値を達成できた。		
			【学校教育の周知】 学校ホームページ、tetoru・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校HPを毎日更新、各学年で1週間に1回以上更新できるように取り組んだり校報で学校の様子を伝えたりする。	実施状況	3学期	A	Tetoruでの情報発信は前年度より増している。	A			学校アンケートの評価項目について、90%の肯定率を得られた。引き続き取り組む。		
地域	地域を愛する子	働地域・協							A	引き続きお願いしたい。				

#### 校長より(年度末)

・学校アンケートの各項目については成果もある一方で、課題も浮き彫りになりました。ただ、子どもたちの自尊感情の高まりについては、今年度の取組で明るい兆しが見えた。「学校は楽しい」という子どもを増やしていき、授業やその他の活動場面で活躍する子どもを増やしていきたい。地域密着型の学校をめざしていく中で、地域との関わりも深めることができた。今後は取組が学校に根付き、継続していけるように取り組んでいきたい。多様性を認め、互いに尊重することができる児童の育成のため、人権教育にも力を入れていき、一人ひとりの子どもの成長を育む学校として、次年度は学校力を高めるよう、保護者の皆様への理解を深め、地域の方々ともしっかりと連携しながら、職員で力をあわせ、学校運営を行っていきたいと考えています。

#### 学校関係者評価から(年度末)

・各学年ごとに地域との関わりを決めて持続的に取り組んでいただき、ありがとうございます。今後も持続できるようお願いしたいし、地域密着型の学校であってほしい。町たんけんやふとん太鼓、防災教育など、地域の特色を学びに取り入れ進めてくれていることは、地域としても嬉しく思う。  
・授業外の負担など、先生方に無いのかと思っています。先生方の心身の健康も大切かと思っておりますので、無理のない範囲で取り組んでいただければと思います。